

食、第八十葉右、與胡ハ興胡、第八十四葉左、步入ハ步人、第八十八葉右、七寶臺寺□大雲寺維紀ハ七寶臺寺僧□大雲寺都維紀、第八十九葉右、樂從功慮ハ樂崇功德ノ譌ナリ。第十一葉右、唯字ノ上食字ヲ脱シ、同葉左、運將ノ下、田主勞(?)ノ三字ヲ脱シ、第二十六葉右、北數二字ノ間、天字ヲ脱シ、第三十九葉右、多地二字ノ間、漢字ヲ脱シ、第四十一葉右、南裏二字ノ間、山字ヲ脱セリ。第三十九葉右、市店□□ハ市店之間ナリ。凡ソ此ノ如キノ誤奪今一一舉グ可ラズ、茲ニ影印スル所ト對校スレバ、補訂ヲ加フベキモノ少カラザルヲ知ルベシ。

此ノ殘卷ハ楮紙ノ薄クシテ黃ナルヲ用キ、卷子トセルモノニシテ、首尾殘缺ノ外、破損少カラズ、殊ニ各行末ノ一列ハ紙面皺裂シテ字體ノ判定シ難キモノ多シ。此ノ部分ニ於テ影印ノ明ラカナラザルハ是ニ由ルナリ。第一紙表面ハ今其ノ裏面ト別個ノ斷片タリト雖、本ト前者ノ末二行ハ後者ノ初二行ト相連接シタルモノニ外ナラズ。書中往々字間右側ニ反點ヲ旁記スルコト、例ヘバ第一紙左第六行、難、誠見、同第十行、天、中王ノ如シ。之レ其ノ字位ノ倒置ヲ示セルモノナルコト言ヲ要セズ。思フニ字間ニ補記セル同筆ノ文字ト共ニ、筆者自ラ加ヘタル所ナルベシ。石室遺書ノ載スル所ハ之ニ留意セザリシヲ以テ、文意通達シ難キモノ諸所ニ存スルハ、當ニ然ルベキ事ナリトス。

唐代義淨三藏ノ後、西遊ノ士ニシテ僅ニ其ノ見聞ヲ傳ヘタルモノヲ貞元五年北庭ニ歸還セシ悟空ト爲ス。而シテ兩者ノ中間ニ於ル西方諸國ノ事情ニ就キテハ、史ノ記スル所甚ダ詳ナラズ。今開元時代ニ當リテ、印度ヲ始メ西域諸國ノ宗教・風俗・政情・地理等ノ一斑ヲ知り得ルモノ、誠ニ此ノ殘卷ノ賜トナス。何ゾ其ノ記事ノ簡略ニシテ、行文ノ平板ナルヲ問フベケンヤ。(羽田)

(1) B. E. F. E.—O. 1909. pp. 511-512.

(2) 敦煌石室遺書第一冊。

(3) 宗教界第十一卷第七號所載、高楠順次郎博士、「慧超往五天竺國傳に就て」を参照すべし。